

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 11 月 17 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870200593
法人名	株式会社 シルバーケアサービス
事業所名	グループホーム ひまわり
所在地	今治市八町西4-1-14 (電話) 0898-22-8115
管理者	富田 陽子
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15
訪問調査日	平成 20 年 10 月 9 日
評価確定日	平成 20 年 11 月 19 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 9 月 11 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 9 月 9 日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	15 人
常勤	15 人
非常勤	人
常勤換算	14.6 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	30,000 円		その他の経費（月額）	17,000 円	
敷 金	有（ ）円		○ 無		
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ ）円 ○ 無		有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり		1,200 円		

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 9 月 11 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	9 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85 歳	最低 71 歳	最高 97 歳		

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田畑が残る静かな住宅地にあり、木材をふんだんに使った温かみのある二階建てのホームである。居間にはピアノや昔なつかしい家具が配置され、落ち着いた雰囲気を作り出している。食材にこだわり、自家製の野菜を使うことができるよう菜園を有している。職員は理念を共有して日々の生活を大切に考えている。利用者が誇りを持って自分らしく過ごしている様子が、やさしく迎えてくれる笑顔からもうかがい知ることができる。家族とのふれあいを大切にしたいという思いから、泊りがけの旅行を恒例行事としている。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目：外部4)

改善項目については改善シートを作成して取り組み、運営推進会議でも話し合っている。前回は地域とのかかわりが主な改善課題であったが、地域性もあり、検討しているがなかなか前進しにくい状況にある。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4)

ユニットごとのミーティング時に一項目ずつ検討しており、各ユニットごとの個性が表われた意見が出ている。また、職員の立場によって視点が違うことで様々な気づきがあり、改善につながっている。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4, 5, 6)

ホームの行事計画や報告、運営状況、生活の様子、他の事業の紹介などを主な内容としており、討議にまでは至っていない。外部評価については、資料を見てもらっているが、内容の検討までには至っていない。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部7, 8)

家族が来訪した際に積極的に声をかけて意見や苦情を聞くとともに、家族アンケートを取ってニーズの掘り起こしにも努めている。また、運営推進会議、家族会等で自由に意見を出してもらい、それに対してミーティングで検討しできるだけ改善につないでいる。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)

行事に参加したり、ボランティアや研修生の受け入れをしているが、日常、地元の方が自主的に立ち寄ってくれることはあまりない。自治会に加入し、回覧板の情報を利用するなど、積極的に地域との交流を図る手立てを工夫し、地域の一員として生活の場での交流がもてるような取り組みが求められる。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

Ⅴ.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホームひまわり

(ユニット名)

ほほえみ

記入者(管理者)

氏 名

富田 陽子

評価完了日

平成 20 年 9 月 17 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 事業所独自の運営理念・方針をもち日々のケアを実施している。その人らしさと共同生活の支えあいを大切に支援している。		
			(外部評価) 開設当初から、地域の中でその人らしく暮らせるようにという思いで理念を作っており、現在まで継続している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 事業所の理念と各ユニットの理念をもち日々努力している。常に理念にもどれるよう、玄関、各ユニット入口に掲示して意識付けをしている。		
			(外部評価) ユニットごとに理念を具体化し、「信頼とやさしさあふれる安心の日々」、「自分らしく安らぎのある生活を送れるよう、心のケアを大切にします」として、日々の生活に生かせるよう取り組んでいる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) ホームの活動内容や生活状況を、毎月のたよりや運営推進会議で報告し、理解を得られるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩や外出時に挨拶や会話を行っている。また、地元のスーパーやお寺などに出かけてふれあう機会を確保している。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の行事に参加したり、ボランティアや職場体験実習などを受け入れて交流している。 (外部評価) 行事に参加したり、ボランティアや研修生の受け入れをしているが、日常、地元の方が自主的に立ち寄ってくれることはあまりない。	※	自治会に加入して回覧板の情報を利用するなど、積極的に地域との交流を図る手立てを工夫し、地域の一員として生活の場での交流がもてるような取り組みが求められる。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 民生委員の方と連携して地域高齢者支援について話し合う機会をもっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 年に1回の自己評価、外部評価を活かしてホームの取り組みの改善につなげている。また、全員でこの評価に取り組むことで、意識も高まると感じている。 (外部評価) ユニットごとのミーティング時に一項目ずつ検討しており、各ユニットの個性が表われた意見が出ている。また、職員の立場によって視点が違うため、相互に様々な気づきがあり、改善につなげることができている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 率直な意見をいただけるようお願いしている。会議に参加できない方については、書面での意見を求めている。		
			(外部評価) 運営推進会議で評価結果を公開しているが、資料を見てもらうだけで内容の検討までには至っていない。利用者と家族全員を会議のメンバーとしているが参加者は少なく、外部からの参加も少ない傾向にある。	※	運営推進会議のメンバー構成について再度検討し、地域のキーパーソンとなる様々な立場の方に加わってもらうことで、認知症に対する理解を地域に広げ、ホームが地域に溶け込んで自然に地域の一員として生活できるような取り組みを期待したい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 申請手続きや書類提出の機会に窓口を訪れ、相談や情報交換を行っている。		
			(外部評価) 様々な書類を提出する際に市担当者と顔見知りの関係になれるよう心がけ、相談や情報交換を積極的に行っている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部の研修会へ参加して、制度を学ぶ機会を確保している。また、研修報告会を職員ミーティングで行い、職員間で勉強し合う機会と必要性の検討を行っている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 外部の研修会へ参加して、制度を学ぶ機会を確保している。また、研修報告会を職員ミーティングで行い、職員間で勉強し合う機会をもち、理解、防止に向けて取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 随時相談不安や疑問に丁寧に対応するよう心がけている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の気持ちの把握に努め、職員間で対応法を検討している。また、重要事項説明書に外部相談窓口を記載している。ホーム内にも掲示するとともに、ご意見箱を玄関に設置している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 毎月「ひまわり新聞」を発行し、個人の生活状況の写真とたよりを書き報告している。必要時は電話連絡を行っている。金銭管理は管理者が行い、定期的に確認をしてもらっている。 (外部評価) 家族が来訪した際に積極的に声をかけ、利用者の健康状態等を詳しく伝えている。生活ぶりは、毎月発行しているホーム便りに加え、個別に手紙と写真を添えて送っている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を玄関に設置して気軽な利用を求めている。相談窓口を重要事項説明書に記載しているほか、事業所内にも掲示している。家族会や運営推進会議での意見をミーティングで話し合って改善、対応している。 (外部評価) 家族アンケートをとり、ニーズの掘り起こしに努めている。また、運営推進会議や家族会等で自由に意見を出してもらい、それに対してミーティングで検討し、できるだけ改善につなげるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に2回ミーティングを行い、職員の意見や提案を聞いている。月に1回主任会議をおこない、反映させている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 柔軟な対応ができるよう、職員間で協力して調整している。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員の離職、異動を必要最小限にとどめている。良いチームケアができるよう、良い人間関係を築く努力をしている。 (外部評価) 利用者との関係、職員間の相性、家族との関係が常に良好であるよう、また利用者にとってより信頼感を持つことができるよう配慮しながら職員の配置換えを行っている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修を受ける機会を確保し、職員教育・育成に努めている。研修の報告書の提出や報告会も行っている。 (外部評価) 様々な研修会の情報を公開し、各職員にとって適切な内容のものを順番に受講できるよう、勤務のローテーションに配慮している。職員間で受講内容を共有できるよう報告書や資料を作成し、内部研修を実施している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会に加入し研修会に参加して情報収集や意見交換を行っている。他事業所での実習を受け入れていただき、相互の意見交換を行っている。 (外部評価) 同業者の主催する行事に参加して見学するなどしていたこともあったが、現在交流の機会が多いとは言えない。	※	身近な地域でネットワークをつくり、管理者のみでなく職員が研修・学習会や交流会を持つことで互いにサービスの質の向上につなげていく取り組みが求められる。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 食事会、旅行、親睦会などを計画して、職員のストレス軽減を図っている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 日々の就業状況を見ながら職員の表情や姿勢などから状況の把握に努めている。管理者や主任を中心に職員のサポートを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 丁寧に相談に応じ、必要な支援ができるよう努力している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 丁寧に相談に応じ、必要な支援ができるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 様々な社会資源の中から必要とされるサービスの情報提供とともに必要な支援に務めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 必要に応じてお試し利用や日中の体験利用を受け入れて対応している。 (外部評価) 病院から入居される場合は病院へ出かけて情報を聞いたり、在宅の場合は居宅を訪問して生活ぶりを見せてもらうなど、様々な方法で情報を収集して、利用者の要望を捉える工夫をしている。また、直接利用者や家族に来訪してもらい、ホームの生活を体験しながら雰囲気に慣れってもらうような工夫もしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) できることができるよう支援し、共同生活で支え合う関係を大切にしている。 (外部評価) 日々の生活の様々な場面で、精神的に支えられ癒されることが多々あり、なにげない行動や言葉でやさしさを感じていると職員は感じている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族や親戚関係者が気軽に訪問していただける雰囲気づくりに努め、家族と一緒に過ごす時間を家族会などで確保し、自然なかたちで介護にも関わっていただいている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) これまでの暮らしの情報や本人、家族らの思いの把握に努め、より良い関係が築けるよう努めている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族の協力も得ながら、馴染みの人との面会や外出支援を実施している。ハガキや手紙などの文通も継続している。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 席の配置や声かけに配慮したり、レクリエーションなどで良好な関係が築けている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 随時相談に応じる等の対応を実施している。ケアマネジャーや関係者との連絡も必要に応じて実施している。また、契約終了者の家族が時々遊びに来られることもあり、今後も関係を大切にしていきたいと思っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 元気に楽しく生き甲斐をもって過ごしていただけるよう、思いや意向の把握に努め、家族にも相談しながら支援している。 (外部評価) 入居時に利用者に関わりのある様々な方からできるだけ多くの情報を得られるよう努めている。入居後は、生活の中での会話や何気ない行動、ふとした言葉を大事にとらえて意向の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時の情報収集に継続して、暮らしの中からも情報収集に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 継続的に、できること、支援が必要なことの見極めをミーティングで話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 月2回のミーティングでチームスタッフで気づきをもとに話し合い作成している。日頃の連絡時や面会時に家族の意向の把握に努め、反映している。 (外部評価) その人らしく過ごせる生活を実現するための支援につなげていける具体的な介護計画となるよう、家族の意見も大切にしながら職員一人ひとりの気づきを盛り込んで立てている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 月1回はミーティングで介護計画実施状況について話し合っている。介護計画の期間に応じて見直しを実施している。 (外部評価) 見直しは3か月と6か月を基本としているが、月2回のミーティングでの評価を行っており、実質は1か月ごとに見直しを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護計画書、介護記録にケア内容や気づきを記入し、ミーティングでの介護計画見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 法人内事業所との連携を密にし、相談したり協力が得られる体制である。その他の社会資源も活用していきたい。 (外部評価) かかりつけ医の受診、美容院などへの付き添い、外泊の支援等を行い、家族同伴の一泊旅行にも出かけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 必要性に応じて、協力を得ながら支援していきたいと考えている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要性に応じて、適切な支援ができるよう努めている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 必要性に応じて、地域包括支援センターに相談したり支援を得られる体制である。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 原則これまでのかかりつけ医に継続して適切な医療が受けられるよう支援している。 (外部評価) かかりつけ医の受診は原則として家族等をお願いしているが、その際には利用者の健康状態や日常生活状況がわかるように報告し、また受診内容と医師の指示を受診報告用紙に記入してもらい確認している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) かかりつけ医及び主治医を中心に支援している。必要に応じて他の専門医を紹介している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 法人内看護職員から、日々相談や助言が得られる体制である。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 職員がお見舞いに行き、医師や家族との情報交換をしながら、可能な限り早期退院支援ができるよう話し合いを実施している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入居時に、ホームの方針について説明している。また、ホームとしての対応について、家族や主治医と相談しながら対応している。 (外部評価) 重度化及び看取りの指針に沿い、重度や終末期はホームとしての対応ができないことを入居時から説明している。日常の健康管理や急変時の対応については常に話し合い確認している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 本人や家族、主治医と相談しながら、ホームでの対応の限界を見極めている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 環境の変化の負担について十分理解した上、必要な情報交換と継続支援に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 信頼関係の形成に努めながら、秘密保持、プライバシー保護には十分注意して対応している。介助の声かけにも配慮しながらさりげないサポートができるよう心がけている。 (外部評価) 居室は利用者のプライベート空間と捉え、名前の呼び方や声かけにも十分な配慮をしている。個人情報に関する記録や書類は慎重に取り扱っている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 飲食物を選ぶこと、衣類を選ぶことなど、自己選択、自己決定の場面を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々のペースを大切にしながら、生活のリズムが作れるよう、余暇活動自由参加などにより支援している。 (外部評価) 自由という名の元で放置することのないよう、また生活のリズムをつくれるよう支援し、利用者はそれぞれのペースで参加しながら自分らしく過ごしている。訪問時の昼食の様子では、それぞれのペースを大切に見守っていることがうかがえた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 行きつけの美容院へ行けるよう家族の協力を得ている。外出時や行事ごとにはおしゃれができるよう支援している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 下ごしらえ、食事、片付けなど一緒に行いながらコミュニケーションができています。好みや食べたいモノはできる限り調整して提供している。 (外部評価) 利用者が職員とおしゃべりしながら食事の準備を手伝い、食事中も会話がはずみ楽しいひと時となっている。片付けは、順番に焦ることなく思い思いに自分のものは自分で洗っている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 希望に添った飲み物やおやつを可能な範囲で提供している。作れるものは一緒に作っている。喫煙については、望み、健康面、安全面に留意しながら、家族の思いも含め、見守りにより対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) オムツの使用をできる限り減らせるよう支援している。羞恥心に配慮しながらスムーズな排泄ができるよう支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 原則毎日入浴している。体調や希望により柔軟な対応に努めている。温泉の湯やショウブ、ゆずなど季節に応じた楽しみも実施している。 (外部評価) 職員が必ず見守りをしながら、利用者に任せて好きなように入って入浴を楽しんでもらっている。ほとんどの方が、一人でのんびり入っている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 体調や希望に応じて休息をとっている。眠れないときは飲み物を飲みながらお話しなどして安心して入眠ができるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 食事作り、おやつ作り、野菜選別、掃除など、利用者の能力と意欲、楽しみに配慮して行えるよう支援している。 (外部評価) 片付けをする方、掃除を担当する方、手作りを楽しむ方、ゲームが得意な方など、自分の持ち前を発揮しながら過ごしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 能力や希望に応じて、買い物や外出ができるよう支援している。管理方法は家族らとよく話し合っていて決めている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 散歩、ドライブ、行事参加、お花見、外食、旅行、喫茶店などへ出かける支援をしている。また、家族も自由に面会に来られて、一緒に出かけたり外泊されたりしている。 (外部評価) 近所の寺社や川沿いの道などを日々楽しみながら散歩している。利用者が歩いていける範囲に買い物できる店がないので、車で買い物や公園、ドライブにも出かけている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 勤務調整や家族に相談しながら希望が実現できるよう支援している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙や年賀状を出せるよう支援している。いつでも電話をかけられるようにしている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 気軽に訪問していただけるよう雰囲気づくりに努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 外部研修会に参加し、知識を学びながら、正しい理解とケアの実施をしている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 鍵をかけないケアを実施している。 (外部評価) どこからでも自由に外へ出られ、敷地内は広いが外へつながる出入り口を見渡すことができるため、利用者の思いを把握しながら職員が必ず見守っている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) さりげない見守りに心がけている。夜間は1時間おきに巡回し、安全確認を実施している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 能力などに応じて対応している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 外部研修に参加したり、ミーティングで勉強会を実施し必要な知識の習得に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 応急手当の講習を受けている。緊急時の連絡簿やマニュアルを作成し緊急時の対応に備えている。	※	A E D設置を検討する。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 避難訓練、消火訓練を定期的実施している。 (外部評価) 年2回、避難訓練を実施している。2階ユニットからの避難は非常階段を使うため、日頃からエレベーターを使用しないで階段を使うようにして機能維持に取り組んでいる。ただ、夜間の避難は職員だけでは限界がある。	※ ※	地域の方々との協力体制を確立したい。 運営推進会議等を通じて話し合い、災害時には近隣の協力が必要不可欠であることを理解してもらい、災害時のマニュアルを作成して具体的な連絡網や支援の依頼をし、避難訓練にも参加してもらう取り組みが求められる。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 起こり得るリスクについて、介護計画書にも記載し家族らに説明したり、対策法を家族らと一緒に検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) バイタルチェック、食事・水分摂取量、排泄などチェックしている。変化に気づいたら早めに法人内看護職員に相談し対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋を確認し、内容を把握した上で支援している。わかりにくい場合は、法人内看護職員にも確認してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食物繊維や乳製品、水分をしっかりと、体操や散歩なども適度に行えるよう支援している。薬を使用する場合は、医師に相談しながら支援している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の歯磨き、就寝前の洗浄などができるよう支援している。定期的に義歯洗浄ポリデントを行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) バランスの良い献立に配慮し、栄養、水分ともに摂取量を確認し記録している。体調や状況に応じて、食事の提供を工夫している。 (外部評価) 季節感あふれたメニューで、食材にもこだわって隣接した畑で無農薬で栽培した野菜を楽しみながら食している。水分の確保については、一人ひとりの必要量を認識して適切に支援している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルがあり実施している。手指消毒液を設置し、こまめな手洗い、うがいを実施している。排泄物処理には必ずナイロン手袋使い捨てを使っている。専門業者の清掃を年2回受けている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 殺菌処理を毎日実施している。衛生が保てるようこまめに掃除を行っている。隣にある畑で新鮮な無農薬野菜を栽培して食卓を飾っている。地元の市場から仕入れた鮮魚を使用している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者が家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関には絵画や季節の飾り物をおき家庭的な雰囲気にしている。玄関口には花もたくさんあり、いつも開放的である。玄関口と道路沿いに看板を設置している。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 庭に面する窓が大きく、自然の光が気持ちいい。テーブルやフロアーには花や観葉植物をおいて生活感や季節感を感じられる工夫をしている。 (外部評価) 居間には懐かしさを感じるどっしりとした筆笥や足踏みミシンがあり、庭に面した場所にはピアノが置かれ、ゆったりとくつろぐことができる。足を伸ばせる量のコーナーもあり、毎日楽しく過ごせる配慮が随所に見受けられる。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ベランダにはテーブルと椅子を設置している。畳の部屋や、広いフロアーにあるソファと食卓で、それぞれが自由に過ごされている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には、自宅にある使い慣れたものを持ってきていただくよう入居時に説明している。鏡台やタンスなどを置かれている。大きなクローゼットもあり、十分な広さのある居室である。 (外部評価) 広いクローゼットを設えており収納が広く、部屋も十分な広さがあるため、利用者のお気に入りの物品が多く持ち込まれている。カーテンも好みのものを使用し、自分らしさを出している。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 換気に努め、冷暖房に頼らず温度調節に配慮している。夏場は扇風機を活用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 段差のないフロアで、手すりも適当な場所に設置している。室内でもシルバーカーや歩行器が利用できる。	※	浴室の構造上、利用者の身体機能の低下に対応できないため、対策を検討する。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) トイレは分かりやすく表示している。タンスにも必要に応じて用途を表示するなど利用者の状況に応じた環境作りに努めている。各部屋には木製の標札をつけている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ベランダや中庭にはテーブルと椅子を設置しており、自由に利用している。庭の手入れをしたり、庭でお茶を飲んだり余暇活動をしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	おいしいものを食べたい、また、お出かけしたいなど、勤務体制を調整しながら支援したり、家族に相談して協力を得ることで対応している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	食卓でおやつを食べながらゆったり過ごさせている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	体調や希望を重視し一人ひとりのペースで暮らされている。日中はできる限り活動され夜間ゆっくり睡眠ができるよう、余暇活動支援も実施している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	笑顔が多く見られる。利用者同士の支え合い、助け合いも見られ、共同生活の中で穏やかな日々が送れている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	行きたいところの希望を聞き、勤務体制を調整しながらできる限り対応できるように支援している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	緊急マニュアル、毎日のバイタルチェック、法人内看護師との協力体制、主治医らとの連携を行いながら、気づきに注意して対応している。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	状況や要望に応じて、家族やチームで相談しながら対応している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	家族会や面会時に家族の思いや要望の把握に努めている。相談や要望には即座に対応するよう努め信頼関係を築けるようにしている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	利用者の親戚や友人が訪ねて来られる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域の自治体の方や民生委員、元市議員の方とのつながりができ、色々なご意見をいただけている。
98	職員は、活き活きと働けている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員間でお互いに意見を言い合い、相互向上に努めている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	笑顔も見られ穏やかに過ごされている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 1 ほぼ全ての家族等が 評価) ② 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	不手際により、連絡ミスなどで不満を言われることもあるが、ホームの方針はほぼご理解いただけている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

・平成14年9月の開設当初から、ホームの方針「柱」は変わっていない。家族介護を拠点に、家庭の温かさを大切に取り組んでいる。入居される方が、少しでも元気に、楽しく笑顔で過ごしていただけることがまず第一。その中で、自立支援、家族支援を並行して行っている。

「食事」「運動」「水分」「排泄」のテーマを重要視して日々の生活ケアに取り入れている。

「食事」・・自家栽培の野菜や地元の新鮮な食材を使用して、毎日毎食手作りの食事を提供している。その過程は、利用者とともに作業している。

「運動」・・体操、散歩、余暇活動など、日中適度な運動の習慣化を図っている。

「水分」・・1日1500cc を目標とし、徹底してチェックしている。ジュースやゼリーなど工夫もしてできる限り多く摂取していただける工夫をしている。

「排泄」・・排便対策として手作り野菜でジュースや調理を行ったり、運動、水分摂取に取り組んでいる。おむつから布パンツへ、可能性を追求しながらケアに当たっている。

・また、職員の教育・育成にも努力している。サービスの質向上には、職員の質の向上が必須。外部研修やホーム内研修を積極的に実施している。職員の意見も反映しながらホームの運営を行っている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホームひまわり

(ユニット名)

ゆめ

記入者(管理者)

氏 名

富田 陽子

評価完了日

平成 20 年 9 月 17 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 事業所独自の運営理念・方針をもち日々のケアを実施している。その人らしさと共同生活の支えあいを大切に支援している。		
			(外部評価) 開設当初から、地域の中でその人らしく暮らせるようにという思いで理念を作っており、現在まで継続している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 事業所の理念と各ユニットの理念をもち日々努力している。常に理念にもどれるよう、玄関、各ユニット入口に掲示して意識付けをしている。職員間で話し合ってユニットの理念を決めている。		
			(外部評価) ユニットごとに理念を具体化し、「信頼とやさしさあふれる安心の日々」、「自分らしく安らぎのある生活を送れるよう、心のケアを大切にします」として、日々の生活に生かせるよう取り組んでいる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) ホームの活動内容や生活状況を、毎月のたよりや運営推進会議で報告し、理解を得られるよう取り組んでいる。	※	運営推進会議の参加にもっと多くの方に出席していただけるよう働きかける。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩や外出時に挨拶や会話をを行っている。また、地元のスーパーやお寺などに出かけてふれあう機会を確保している。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の行事に参加したり、ボランティアや職場体験実習などを受け入れて交流している。 (外部評価) 行事に参加したり、ボランティアや研修生の受け入れをしているが、日常、地元の方が自主的に立ち寄ってくれることはあまりない。	※	自治会に加入して回覧板の情報を利用するなど、積極的に地域との交流を図る手立てを工夫し、地域の一員として生活の場での交流がもてるような取り組みが求められる。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 民生委員の方と連携して地域高齢者支援について話し合う機会をもっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 年に1回の自己評価、外部評価を活かしてホームの取り組みの改善につなげている。また、全員でこの評価に取り組むことで、意識も高まると感じている。 (外部評価) ユニットごとのミーティング時に一項目ずつ検討しており、各ユニットの個性が表われた意見が出ている。また、職員の立場によって視点が違うため、相互に様々な気づきがあり、改善につなげることができている。	※	職員間で積極的な意見交換ができるように工夫する。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 率直な意見をいただけるようお願いしている。会議に参加できない方については、書面での意見を求めている。	※	ご家族の会議出席率が低いため、出席していただけるよう働きかけると共に、積極的に意見が得られるようアンケートや文書による意見聴取を行う。
			(外部評価) 運営推進会議で評価結果を公開しているが、資料を見てもらうだけで内容の検討までには至っていない。利用者と家族全員を会議のメンバーとしているが参加者は少なく、外部からの参加も少ない傾向にある。	※	運営推進会議のメンバー構成について再度検討し、地域のキーパーソンとなる様々な立場の方に加わってもらうことで、認知症に対する理解を地域に広げ、ホームが地域に溶け込んで自然に地域の一員として生活できるような取り組みを期待したい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 申請手続きや書類提出の機会に窓口を訪れ、相談や情報交換を行っている。		
			(外部評価) 様々な書類を提出する際に市担当者と顔見知りの関係になれるよう心がけ、相談や情報交換を積極的に行っている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部の研修会へ参加して、制度を学ぶ機会を確保している。また、研修報告会を職員ミーティングで行い、職員間で勉強し合う機会と必要性の検討を行っている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 外部の研修会へ参加して、制度を学ぶ機会を確保している。また、研修報告会を職員ミーティングで行い、職員間で勉強し合う機会をもち、理解、防止に向けて取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 随時相談不安や疑問に丁寧に対応するよう心がけている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の気持ちの把握に努め、職員間で対応法を検討している。また、重要事項説明書に外部相談窓口を記載している。ホーム内にも掲示するとともに、ご意見箱を玄関に設置している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 毎月「ひまわり新聞」を発行し、個人の生活状況の写真とたよりを書き報告している。必要時は電話連絡を行っている。金銭管理は管理者が行い、定期的に確認をしてもらっている。 (外部評価) 家族が来訪した際に積極的に声をかけ、利用者の健康状態等を詳しく伝えている。生活ぶりは、毎月発行しているホーム便りに加え、個別に手紙と写真を添えて送っている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を玄関に設置して気軽な利用を求めている。相談窓口を重要事項説明書に記載しているほか、事業所内にも掲示している。家族会や運営推進会議での意見をミーティングで話し合って改善、対応している。 (外部評価) 家族アンケートをとり、ニーズの掘り起こしに努めている。また、運営推進会議や家族会等で自由に意見を出してもらい、それに対してミーティングで検討し、できるだけ改善につなげるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に2回ミーティングを行い、職員の意見や提案を聞いている。月に1回主任会議をおこない、反映させている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 柔軟な対応ができるよう、職員間で協力して調整している。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員の離職、異動を必要最小限にとどめている。良いチームケアができるよう、良い人間関係を築く努力をしている。 (外部評価) 利用者との関係、職員間の相性、家族との関係が常に良好であるよう、また利用者にとってより信頼感を持つことができるよう配慮しながら職員の配置換えを行っている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修を受ける機会を確保し、職員教育・育成に努めている。研修の報告書の提出や報告会も行っている。 (外部評価) 様々な研修会の情報を公開し、各職員にとって適切な内容のものを順番に受講できるよう、勤務のローテーションに配慮している。職員間で受講内容を共有できるよう報告書や資料を作成し、内部研修を実施している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会に加入し研修会に参加して情報収集や意見交換を行っている。他事業所での実習を受け入れていただき、相互の意見交換を行っている。	※	相互評価等を検討する。
			(外部評価) 同業者の主催する行事に参加して見学するなどしていたこともあったが、現在交流の機会が多いとは言えない。	※	身近な地域でネットワークをつくり、管理者のみでなく職員が研修・学習会や交流会を持つことで互いにサービスの質の向上につなげていく取り組みが求められる。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 食事会、旅行、親睦会などを計画して、職員のストレス軽減を図っている。	※	職員間のコミュニケーションを日常からしっかりとっていく。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 日々の就業状況を見ながら職員の表情や姿勢などから状況の把握に努めている。管理者や主任を中心に職員のサポートを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 丁寧に相談に応じ、必要な支援ができるよう努力している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 丁寧に相談に応じ、必要な支援ができるよう努力している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 様々な社会資源の中から必要とされるサービスの情報提供とともに必要な支援に務めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 必要に応じてお試し利用や日中の体験利用を受け入れて対応している。 (外部評価) 病院から入居される場合は病院へ出かけて情報を聞いたり、在宅の場合は居宅を訪問して生活ぶりを見せてもらうなど、様々な方法で情報を収集して、利用者の要望を捉える工夫をしている。また、直接利用者や家族に來訪してもらい、ホームの生活を体験しながら雰囲気に慣れってもらうような工夫もしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) できることができるよう支援し、共同生活で支え合う関係を大切にしている。 (外部評価) 日々の生活の様々な場面で、精神的に支えられ癒されることが多々あり、なにげない行動や言葉でやさしさを感じていると職員は感じている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族や親戚関係者が気軽に訪問していただける雰囲気づくりに努め、家族と一緒に過ごす時間を家族会などで確保し、自然なかたちで介護にも関わっていただいている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) これまでの暮らしの情報や本人、家族らの思いの把握に努め、より良い関係が築けるよう努めている。旅行や家族会など一緒に過ごす時間を大切にしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族の協力も得ながら、馴染みの人との面会や外出支援を実施している。ハガキや手紙などの文通も継続している。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 席の配置や声かけに配慮したり、レクリエーションなどで良好な関係が築けている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 随時相談に応じる等の対応を実施している。ケアマネジャーや関係者との連絡も必要に応じて実施している。また、契約終了者の家族が時々遊びに来られることもあり、今後も関係を大切にしていきたいと思っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 元気に楽しく生き甲斐をもって過ごしていただけるよう、思いや意向の把握に努め、家族にも相談しながら支援している。 (外部評価) 入居時に利用者に関わりのある様々な方からできるだけ多くの情報を得られるよう努めている。入居後は、生活の中での会話や何気ない行動、ふとした言葉を大事にとらえて意向の把握に努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時の情報収集に継続して、暮らしの中からも情報収集に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 継続的に、できること、支援が必要なことの見極めをミーティングで話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 月2回のミーティングでチームスタッフで気づきをもとに話し合い作成している。日頃の連絡時や面会時に家族の意向の把握に努め、反映している。 (外部評価) その人らしく過ごせる生活を実現するための支援につなげていける具体的な介護計画となるよう、家族の意見も大切にしながら職員一人ひとりの気づきを盛り込んで立てている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 月1回はミーティングで介護計画実施状況について話し合っている。介護計画の期間に応じて見直しを実施している。 (外部評価) 見直しは3か月と6か月を基本としているが、月2回のミーティングでの評価を行っており、実質は1か月ごとに見直しを行っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護計画書、介護記録にケア内容や気づきを記入し、ミーティングでの介護計画見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 法人内事業所との連携を密にし、相談したり協力が得られる体制である。その他の社会資源も活用していきたい。 (外部評価) かかりつけ医の受診、美容院などへの付き添い、外泊の支援等を行い、家族同伴の一泊旅行にも出かけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 必要性に応じて、協力を得ながら支援していきたいと考えている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要性に応じて、適切な支援ができるよう努めている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 必要性に応じて、地域包括支援センターに相談したり支援を得られる体制である。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 原則これまでのかかりつけ医に継続して適切な医療が受けられるよう支援している。 (外部評価) かかりつけ医の受診は原則として家族等をお願いしているが、その際には利用者の健康状態や日常の生活状況がわかるように報告し、また受診内容と医師の指示を受診報告用紙に記入してもらい確認している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) かかりつけ医及び主治医を中心に支援している。必要に応じて他の専門医を紹介している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 法人内看護職員から、日々相談や助言が得られる体制である。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 職員がお見舞いに行き、医師や家族との情報交換をしながら、可能な限り早期退院支援ができるよう話し合いを実施している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入居時に、ホームの方針について説明している。また、ホームとしての対応について、家族や主治医と相談しながら対応している。 (外部評価) 重度化及び看取りの指針に沿い、重度や終末期はホームとしての対応ができないことを入居時から説明している。日常の健康管理や急変時の対応については常に話し合い確認している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 本人や家族、主治医と相談しながら、ホームでの対応の限界を見極めている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 環境の変化の負担について十分理解した上、必要な情報交換と継続支援に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 信頼関係の形成に努めながら、秘密保持、プライバシー保護には十分注意して対応している。介助の声かけにも配慮しながらさりげないサポートができるよう心がけている。 (外部評価) 居室は利用者のプライベート空間と捉え、名前の呼び方や声かけにも十分な配慮をしている。個人情報に関する記録や書類は慎重に取り扱っている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 飲食物を選ぶこと、衣類を選ぶことなど、自己選択、自己決定の場面を大切にしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々のペースを大切にしながら、生活のリズムが作れるよう、余暇活動自由参加などにより支援している。 (外部評価) 自由という名の元で放置することのないよう、また生活のリズムをつくれるよう支援し、利用者はそれぞれのペースで参加しながら自分らしく過ごしている。訪問時の昼食の様子では、それぞれのペースを大切に見守っていることがうかがえた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 行きつけの美容院へ行けるよう家族の協力を得ている。外出時や行事ごとにはおしゃれができるよう支援している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 下ごしらえ、食事、片付けなど一緒に行いながらコミュニケーションができています。好みや食べたいモノはできる限り調整して提供している。 (外部評価) 利用者が職員とおしゃべりしながら食事の準備を手伝い、食事中も会話がはずみ楽しいひと時となっている。片付けは、順番に焦ることなく思い思いに自分のものは自分で洗っている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 希望に添った飲み物やおやつを可能な範囲で提供している。作れるものは一緒に作っている。喫煙については、望み、健康面、安全面に留意しながら、家族の思いも含め、見守りにより対応している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) オムツの使用をできる限り減らせるよう支援している。羞恥心に配慮しながらスムーズな排泄ができるよう支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 原則毎日入浴している。体調や希望により柔軟な対応に努めている。温泉の湯やショウブ、ゆずなど季節に応じた楽しみも実施している。 (外部評価) 職員が必ず見守りをしながら、利用者に任せて好きなように入って入浴を楽しんでもらっている。ほとんどの方が、一人でのんびり入っている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 体調や希望に応じて休息をとっている。眠れないときは飲み物を飲みながらお話しなどして安心して入眠ができるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 食事作り、おやつ作り、野菜選別、掃除など、利用者の能力と意欲、楽しみに配慮して行えるよう支援している。 (外部評価) 片付けをする方、掃除を担当する方、手作りを楽しむ方、ゲームが得意な方など、自分の持ち前を発揮しながら過ごしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 能力や希望に応じて、買い物や外出ができるよう支援している。管理方法は家族らとよく話し合っていて決めている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 散歩、ドライブ、行事参加、お花見、外食、旅行、喫茶店などへ出かける支援をしている。また、家族も自由に面会に来られて、一緒に出かけたり外泊されたりしている。 (外部評価) 近所の寺社や川沿いの道などを日々楽しみながら散歩している。利用者が歩いていける範囲に買い物できる店がないので、車で買い物や公園、ドライブにも出かけている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 勤務調整や家族に相談しながら希望が実現できるよう支援している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙や年賀状を出せるよう支援している。いつでも電話をかけられるようにしている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 気軽に訪問していただけるよう雰囲気づくりに努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 外部研修会に参加し、知識を学びながら、正しい理解とケアの実施をしている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 鍵をかけないケアを実施している。 (外部評価) どこからでも自由に外へ出られ、敷地内は広いが外へつながる出入り口を見渡すことができるため、利用者の思いを把握しながら職員が必ず見守っている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) さりげない見守りに心がけている。夜間は1時間おきに巡回し、安全確認を実施している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 能力などに応じて対応している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 外部研修に参加したり、ミーティングで勉強会を実施し必要な知識の習得に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 応急手当の講習を受けている。緊急時の連絡簿やマニュアルを作成し緊急時の対応に備えている。	※	A E D設置を検討する。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 避難訓練、消火訓練を定期的実施している。 (外部評価) 年2回、避難訓練を実施している。2階ユニットからの避難は非常階段を使うため、日頃からエレベーターを使用しないで階段を使うようにして機能維持に取り組んでいる。ただ、夜間の避難は職員だけでは限界がある。	※ ※	地域の方々との協力体制を確立したい。 運営推進会議等を通じて話し合い、災害時には近隣の協力が必要不可欠であることを理解してもらい、災害時のマニュアルを作成して具体的な連絡網や支援の依頼をし、避難訓練にも参加してもらい取り組みが求められる。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 起こり得るリスクについて、介護計画書にも記載し家族等に説明したり、対策法を家族らと一緒に検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) バイタルチェック、食事・水分摂取量、排泄などチェックしている。変化に気づいたら早めに法人内看護職員に相談し対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋を確認し、内容を把握した上で支援している。わかりにくい場合は、法人内看護職員にも確認してもらっている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食物繊維や乳製品、水分をしっかりと、体操や散歩なども適度に行えるよう支援している。薬を使用する場合は、医師に相談しながら支援している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の歯磨き、就寝前の洗浄などができるよう支援している。定期的に義歯洗浄ポリデントを行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) バランスの良い献立に配慮し、栄養、水分ともに摂取量を確認し記録している。体調や状況に応じて、食事の提供を工夫している。 (外部評価) 季節感あふれたメニューで、食材にもこだわって隣接した畑で無農薬で栽培した野菜を楽しみながら食している。水分の確保については、一人ひとりの必要量を認識して適切に支援している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルがあり実施している。手指消毒液を設置し、こまめな手洗い、うがいを実施している。排泄物処理には必ずナイロン手袋使い捨てを使っている。専門業者の清掃を年2回受けている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 殺菌処理を毎日実施している。衛生が保てるようこまめに掃除を行っている。隣にある畑で新鮮な無農薬野菜を栽培して食卓を飾っている。地元の市場から仕入れた鮮魚を使用している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関には絵画や季節の飾り物をおき家庭的な雰囲気にしている。玄関口には花もたくさんあり、いつも開放的である。玄関口と道路沿いに看板を設置している。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 庭に面する窓が大きく、自然の光が気持ちいい。テーブルやフロアーには花や観葉植物をおいて生活感や季節感を感じられる工夫をしている。 (外部評価) 居間には懐かしさを感じるどっしりとした箆箆や足踏みミシンがあり、庭に面した場所にはピアノが置かれ、ゆったりとくつろぐことができる。足を伸ばせる量のコーナーもあり、毎日楽しく過ごせる配慮が随所に見受けられる。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ベランダにはテーブルと椅子を設置している。畳の部屋や、広いフロアーにあるソファと食卓で、それぞれが自由に過ごされている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には、自宅にある使い慣れたものを持ってきていただくよう入居時に説明している。鏡台やタンスなどを置かれている。大きなクローゼットもあり、十分な広さのある居室である。 (外部評価) 広いクローゼットを設えており収納が広く、部屋も十分な広さがあるため、利用者のお気に入りの物品が多く持ち込まれている。カーテンも好みのものを使用し、自分らしさを出している。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 換気に努め、冷暖房に頼らず温度調節に配慮している。夏場は扇風機を活用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 段差のないフロアで、手すりも適当な場所に設置している。室内でもシルバーカーや歩行器が利用できる。	※	浴室の構造上、利用者の身体機能の低下に対応できないため、対策を検討する。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) トイレは分かりやすく表示している。タンスにも必要に応じて用途を表示するなど利用者の状況に応じた環境作りに努めている。各部屋には木製の標札をつけている。		
87		○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ベランダや中庭にはテーブルと椅子を設置しており、自由に利用している。庭の手入れをしたり、庭でお茶を飲んだり余暇活動をしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	アセスメントや日々の会話の中で思いや願いの把握に努め、実践に向けて取り組んでいる。利用者の生活が穏やかに落ち着いて過ごされている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	一緒にお茶を飲んだりおやつを食べながらゆったり過ごせている。食後もゆったりくつろぐ時間がある。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	起床、就寝時間、食事の時間等、だいたいの生活の流れの中で、利用者の体調やリズムに応じて、利用者の生活のペースを大切に柔軟な対応ができています。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者同士や職員との交流で和やかな場面が多く見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	買い物や美容室、食事等、家族や職員と一緒に出かけている。日常生活の中で利用者の意向を把握し支援ができるよう調整している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	緊急マニュアル、毎日のバイタルチェック、法人内看護師との協力体制、主治医らとの連携を行いながら、気づきに注意して対応している。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	状況や要望に応じて、家族やチームで相談しながら対応している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	信頼関係を大切に家族と連絡を密にとるよう心がけている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	利用者の親戚や友人が訪ねて来られる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域の自治体の方や民生委員、元市議員の方とのつながりができ、色々なご意見をいただけている。もっとつながりを増やしたい。
98	職員は、活き活きと働けている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員間でお互いに意見を言い合い、相互向上に努めている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	笑顔も見られ穏やかに過ごされている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 1 ほぼ全ての家族等が 評価) ② 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	ホームの方針はほぼご理解いただけている。家族会等への参加も多く、いつも気軽に訪問していただいたり、コミュニケーションがとれている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

・平成14年9月の開設当初から、ホームの方針「柱」は変わっていない。家族介護を拠点に、家庭の温かさを大切に取り組んでいる。入居される方が、少しでも元気に、楽しく笑顔で過ごしていただけることがまず第一。その中で、自立支援、家族支援を並行して行っている。

「食事」「運動」「水分」「排泄」のテーマを重要視して日々の生活ケアに取り入れている。

「食事」・・自家栽培の野菜や地元の新鮮な食材を使用して、毎日毎食手作りの食事を提供している。その過程は、利用者とともに作業している。

「運動」・・体操、散歩、余暇活動など、日中適度な運動の習慣化を図っている。

「水分」・・1日1500ccを目標とし、徹底してチェックしている。ジュースやゼリーなど工夫もしてできる限り多く摂取していただける工夫をしている。

「排泄」・・排便対策として手作り野菜でジュースや調理を行ったり、運動、水分摂取に取り組んでいる。おむつから布パンツへ、可能性を追求しながらケアに当たっている。

・また、職員の教育・育成にも努力している。サービスの質向上には、職員の質の向上が必須。外部研修やホーム内研修を積極的に実施している。職員の意見も反映しながらホームの運営を行っている。